

## 政務活動費 視察・研修会等 報告書

・日 時	平成29年 5月15日(月) ～ 5月16日(火)
・場 所	兵庫県神戸市
・参加者	関口直久、渡辺恒
・項 目	自然災害への備えについて (事前復興政策と受援力について)

### ◎概 要

#### (1) 説明要旨

自然は、絶えず変化しています。人間社会は自然に囲まれ、自然に働きかけ文明を作り上げてきました。自然災害は自然の変動によって人間社会が物理的な打撃を受け、人的、経済的社会的損失を受けることです。自然災害は、自然と人間社会とのかかわりの中で起こるものであり、自然の変動があっても人間社会との関係がないところには、災害は起こらないということです。また、地震災害だけでなく、集中豪雨による土砂災害、火山の噴火災害なども大きな被害をもたらしており、地震災害を含めて災害への備えが日本社会の持続的発展にとっても大きな過大となってきました。

#### (2) 主な質疑応答

質問：地域防災計画等の作成に当たって住民の声を聞くパブコメについて

回答：パブコメはやったらよいというものではない。広く住民の声を聞くことについて、何をやったらよいか検討することが重要ではないか。

#### (3) 参考となる点及び課題

日本列島の先人は地震を避けるために知恵を働かせた。自然の変動を防ぐことはできないが、それが財災害となるかどうかは優れた社会の在り方に規定されていると言えます。

◎成果による当局への提言または要望等

自然災害の被害者は基本的に社会的弱者や経済的弱者に集中する。この課題を正面からとらえ、対策を練ることが重要と思う。

また、災害時における福祉避難所は作らなければならない。誰が誰をどう避難所に連れていくかは具体的に検証する課題も学びました。